

自立活動全体計画（抜粋）

1 自立活動の目標

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

2 自立活動の内容

区 分	項 目	項目について
健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	◆健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身に付ける ◆生活習慣の形成 ◆健康な生活環境の形成
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	◆病気の状態の理解 ◆病気予防、改善のための自己管理
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	◆身体各部の状態の理解 ◆病状部位の保護、症状進行の防止
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事	◆自己の障害の特性の理解 ◆生活環境を整えること
	(5) 健康状態の維持・改善に関する事	◆適切な健康の自己管理
心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事	◆不安感や緊張感の緩和 ◆自分を落ち着かせる手段を身に付ける ◆自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付ける ◆活動への意欲をもつ
	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	◆場所や場面の状況を理解（活動への見通し） ◆状況の理解と適切な対応
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	◆自分の障害の理解と受容 ◆学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上
人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	◆人への信頼感 ◆他者からの働き掛けの受容 ◆他者への働き掛け
	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	◆他者の意図や感情を理解 ◆場に応じた適切な行動
	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	◆自分の得意不得意の理解 ◆自分の行動の特徴の理解 ◆集団の中で状況に応じた行動
	(4) 集団への参加の基礎に関する事	◆集団生活や社会のルールを理解 ◆集団生活や社会のルールの遵守 ◆集団活動への積極的な参加

環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事	◆視覚、聴覚、触覚などの感覚の活用 ◆保有する優位な感覚の効果的活用
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	◆感覚の過敏さの特性の理解と対応 ◆認知の偏りなどの特性の理解と対応 ◆不快な音や感触などを自ら回避する手段 ◆自分に合った注意集中の方法を使用 ◆不得意な課題を得意な方法で解決する
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	◆感覚の補助機器の活用
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	◆感覚器官、補助機器、代行手段の総合的な活用による情報収集、的確な判断と行動
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	◆ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成 ◆日常生活の基礎となる概念の形成と活用
身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	◆自分の身体のイメージを養う ◆姿勢保持、姿勢変換、移動、四肢の粗大運動と微細運動
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	◆姿勢保持や運動・動作の補助用具や補助的手段の活用
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	◆日常生活や学習に必要な基本動作を身に付ける ◆目と手の協応動作の向上 ◆手指の巧緻性、持続性の向上
	(4) 身体の移動能力に関する事	◆日常生活に必要な移動能力の向上
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	◆作業に必要な基本動作の習得 ◆作業に必要な動作の巧緻性と持続性の向上 ◆作業を円滑に遂行する能力の向上
コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事	◆人への興味・関心、信頼関係の形成 ◆意志や要求の伝達、やりとり ◆話を聞く態度の形成
	(2) 言語の受容と表出に関する事	◆言葉による意思の伝達、やり取り ◆文字や記号など視覚的な手掛かりによる意思の伝達、やり取り
	(3) 言語の形成と活用に関する事	◆言語の概念の形成 ◆語彙や文法体系の習得
	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	◆コミュニケーションの補助的手段の活用（文字、記号、筆談、機器等）
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事	◆場面や状況、相手の立場や気持ちなどに応じた適切な言葉遣いや態度の形成 ◆主体的にコミュニケーションできる力 ◆コミュニケーションを円滑に行う力